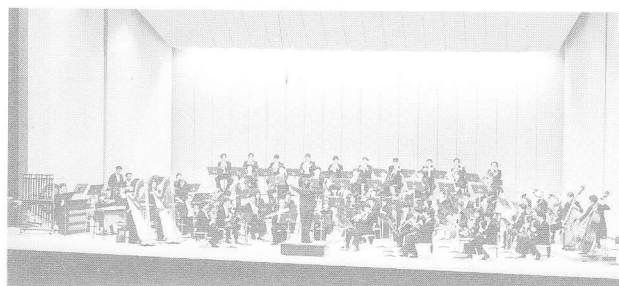


演奏部門



東京吹奏楽団 殿

推薦理由

1963年創立以来、30年の永きにわたり演奏活動を続け、日本の吹奏楽発展に貢献されました。特に、定期演奏会における邦人作品の演奏や、小・中学校の生徒を対象とした音楽鑑賞会活動は、吹奏楽人口底辺の拡大に寄与し、広く吹奏楽の発展に貢献した功績は大きいものがあります。

推薦内容

1. 定期演奏会は東京で毎年1～2回のペースで既に45回。
その他、全国各地での一般演奏会。学校音楽鑑賞会は関東を中心に長野、新潟、福井の各県に毎年の様に巡回、1年に平均100ステージ。コロムビア、ミノルフォン、キング、アポロン、ビクター、ポリドール、東芝EMIでレコード録音。その他、NHK、TBSのTV出演、NHKFMの録音、学校音楽教育用鑑賞教材の録画等。
2. 定期演奏会等で30人以上の邦人作曲家の作品を紹介。

プロフィール

1963年（昭和38年）、故山本正人氏と東京芸術大学卒業の管・打楽器奏者を中心に、我が国で初のプロ吹奏楽団として創立されました。

同年11月に第1回定期演奏会を開催、以来、現在まで45回の定期演奏会を初め、特別演奏会、放送、レコード録音、全国各地の学校における音楽鑑賞教室等の演奏活動を始め、日本の吹奏楽発展に貢献する。又、日本人作曲家に吹奏楽作品の作曲を委嘱、定期演奏会等で初演する等、邦人作品の紹介も積極的に行なわれました。

これらの実績が認められ、1973年から80年まで文化庁の助成を受けました。

1983年より汐澤安彦氏を常任指揮者に迎え、音楽大学を卒業した優秀な実力を持つトップクラスの若手メンバーをそろえ、現在日本を代表するプロ吹奏楽団として注目を集めています。

作曲部門

兼田 敏 殿



推薦理由

兼田敏氏は、中学時代（京都府立上京中学校）より現在に至るまで、その長い期間に吹奏楽をこよなく愛し、演奏を始めとし、作曲活動に尽力してこられた。1967年に、ヤマハ吹奏楽シリーズとして、財団法人ヤマハ音楽振興会より発行した、15～20人編成および24～32人編成用の編曲は素晴らしく、今日もお多くの団体に演奏されています。以後、全日本吹奏楽コンクール課題曲を始め、多くの優れた作品は、日本国内ばかりでなく、外国でも出版され好評を博しています。現在の吹奏楽界の中堅メンバーの殆どは、多かれ少なかれ、兼田氏の指導によるところが大であります。

推薦内容

1964年、バンドの為の楽章「若人の歌」が全日本吹奏楽コンクール課題曲として発表されたのを皮切りに、数多くのオリジナル曲を意欲的に発表されています。代表曲として、シンフォニックバンドの為の序曲、シンフォニックバンドの為のパスサリア、吹奏楽の為の交響的瞬間、吹奏楽の為の交響的音頭、日本民謡組曲「わらべうた」や、全日本吹奏楽コンクール課題曲など、我が国の吹奏楽曲の代表的なレパートリーを作り上げてもらいました。

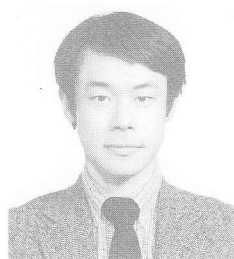
プロフィール

1935年満州（現在の中国東北部）生まれ。京都市堀川高等学校音楽科を経て、1954年に東京芸術大学に入学されました。在学中の、55年「フルート、クラリネット、ファゴットのためのソナタ」で第25回毎日音楽コンクール室内楽部門第2位に入賞。翌年の第26回毎日音楽コンクール管弦楽部門に「シンフォニア」にて、第1位に入賞をされました。

その後も多くの佳作を生み、現在は、愛知県立芸術大学教授として、作曲活動はもとより、後進の指導にも大いに貢献されています。

研究部門

福 井 一 殿



推薦理由

福井氏は、奈良教育大学教育学部及び同大学院助教授として研究及び、後進の指導に当たられています。以前より、吹奏楽や管楽器に関する著書、論文、邦訳等を数多く発表されています。

その中で、(株)音楽之友社より出版されている「金管楽器とその歴史」は、優れた研究書を日本語にて広く我が国の吹奏楽関係者に紹介し、音楽教育や管楽器研究に影響を与えた研究業績として価値のあるものです。

推薦内容

我が国の極少数の人達によって読まれていたにすぎなかった、アンソニー・ベインズ (Anthony Baines, LONDON, 1912~) の研究論文 "Brass Instrument: their History and Development (London, 1976)" を邦訳し、我が国吹奏楽界に紹介を行いました。翻訳にあたっては、できるだけ平易でわかりやすい表現に努められ、研究者はもちろん演奏者、吹奏楽指導者、学生だけでなく一般の音楽愛好家にも楽しめるよう配慮されています。専門書の翻訳は、語学だけでは無く、多くの専門的な知識を必要とするものであり、氏の日頃からの研究が多いに活かされた、たいへん貴重な業績です。

プロフィール

1952年大阪生まれ、京都市立芸術学部音楽学部音楽学科を卒業後、アメリカ合衆国へ留学、ミシガン大学 (The University of Michigan) 大学院修士課程を修了。現在、奈良教育大学教育学部及び同大学院研究科の助教授。専攻・研究分野は、音楽行動、音楽教育学、楽器学。主な著書、翻訳などに、「バンド・ディレクターズハンドブック」(1986年5月、旭商事印刷部)、「金管楽器とその歴史」A. Baines 著 (1991年11月、音楽之友社) があります。

制作部門

(株) 佼成出版社 殿

推薦理由

1979年、吹奏楽発展の為に、日本を代表する指揮者の一人である秋山和慶氏（当時、バンクーバー交響楽団指揮者）により、「吹奏楽オリジナルシリーズ」(LP) 全8集の収録を始めました。以来、F. フェネルを始め様々な指揮者と東京佼成ウインドオーケストラで、現在まで53枚にも及ぶLP、CDを制作。その発売曲数は300数十曲となりました。日本の吹奏楽界のみならず、アメリカ、スイス、オランダ等ヨーロッパにも多大な影響を与えています。また、吹奏楽の歴史読本や邦人作曲家の作品の発刊など吹奏楽界に与えた影響・貢献は大きなものがあります。

推薦内容

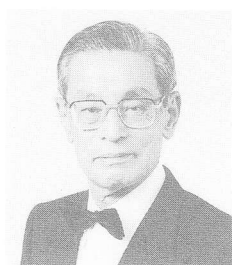
1992年12月現在、吹奏楽CD53タイトル、楽譜15タイトル、音楽書籍7タイトルにも及び出版を行っています。1992年度の活動としては、4月に東京現代音楽祭「吹奏」ライブ・アルバムを発売し、レコード芸術誌特選を受賞。また10月には吹奏楽アレンジとしては世界初の「ローマ三部作」をCDにて発売しました。

プロフィール

1966年8月に設立。77年4月音楽レコード部門発足。1979年、秋山和慶氏指揮により東京佼成ウインドオーケストラ「オリジナルシリーズ第1集」の録音を開始。80年に発売。81年には、ゲスト・コンダクター・シリーズ第1集「A. リード&東京佼成ウインドオーケストラ」を発売。以後、R. ジェイガー、A. ゲイブリエル、J. パーンズ、J. バンクヘッド各氏を招聘しました。84年、「フェネル・ウインドアンサンブル・シリーズ」第1集を発売。87年「フレデリック・フェネル・シリーズ」第1集を発売。88年東京佼成ウインドオーケストラ・ヨーロッパツアーにて英国・ロンドンにて初の海外録音を行う。90年邦人作品シリーズ第1集「深層の祭」を発売。91年「ヨーロッパ・ウインド・サークル」第1集「スバルタカス」(指揮：ヤン・デ・ハーン) 発売。

啓蒙部門

鈴木竹男殿



推薦理由

鈴木竹男氏は、永年に渡り阪急少年音楽隊ならびに阪急吹奏楽団の育成とともに、主に関西圏ではあるが、吹奏楽の演奏活動、指導を通じて非常に貢献されています。関西の吹奏楽のビッグイベントには、皆関わっており大きな功績を残されています。また、バンドジャーナル、バンドビープル等の専門誌にも永年執筆され、それらを通じて全国の吹奏楽界にも大きな影響を与えています。文字通り吹奏楽界の重鎮として、その功績ははかりしれないものがあります。

推薦内容

1961年に、西宮球場で「100人の吹奏楽」の名称で開催されたイベントは、現在「3000人の吹奏楽」として全国に知れ渡るビッグイベントに成長しました。62年には、「アマチュア・トップ・コンサート」を宝塚大劇場にて開催、現在も続くショウ的な楽しいコンサートです。その他にも、「日本万国博」「神戸ポートピア」「ユニバーシアード神戸大会」「大阪花博」「ユニバーシアード札幌大会」等の開会式、閉会式他多数のイベント、マーチングショウの企画・構成を行っています。1990年には、西宮氏芸術文化部門功労賞、92年には、西宮市民文化功労賞を受賞されています。

プロフィール

1923年(大正12年)兵庫県西宮市生まれ、育ち、学び、勤務し、現在もなお、在住し続ける生粋の「宮っ子」です。氏の吹奏楽歴は、甲陽中学校に吹奏楽部に所属したことから始まります。関西学院大学在学中は、吹奏楽部が無かったためグリークラブに所属し、中学校OBバンドを結成しました。戦後、母校甲陽中学校に勤務し吹奏楽部を結成。47年に西宮市立今津中学校に勤務、吹奏楽部を結成し関西のトップバンドに育てあげました。57年には阪急百貨店、阪急少年音楽隊(阪急商業学園)設立に伴い、隊長(学園長)となり、60年には阪急百貨店吹奏楽団創立、全日本吹奏楽コンクール職場の部に初出場。

(社)全日本吹奏楽連盟名誉会員、日本マーチングバンド指導者協会副会長、日本吹奏楽指導者協会功労会員、関西吹奏楽指導者研究会会長、西宮市吹奏楽連盟会長など吹奏楽関係役職も多数あります。著書として、「吹奏楽講座」(音楽之友社)、「吹奏楽指導全集(同朋社)」、「ハロー! バンドの仲間たち」(全音楽譜出版社)他があります。